

7. 植栽

既存の樹木はできるだけ残す、あるいは移植し修景に活かすなど保全に努め、角地やアイストップとなる位置にはシンボルツリーを植えるなど、樹木の配置や樹種の構成などに配慮してください。

植栽環境や植栽目的を考慮した緑化計画を立て、良好な景観づくりをしてください。

住商工 緑の保全と育成に努める

住商工 敷地内に生育する樹木は保全するよう努め、建物配置、生育状況、植栽環境等によりやむを得ず伐採するときは、必要最小限にとどめる



敷地内にある既存樹木を可能な範囲で保全した例



斜面に保全された樹木の例

街路樹の伐採時の注意点

吹田市には街路樹の美しい通りが多くあります。車両の出入り口を設ける場合、街路樹を伐採する必要があることがあります。通りの景観が損なわれないよう、可能な限り樹木を移植又は新たに植えるなど、道路管理者と協議を行きましょう。



住商工 敷地内に樹形が優れた樹木がある場合は、計画に活かすよう配慮する



広がる樹形が美しい、キャンパス内のくすのきの例



敷地内の既存樹木を残しながら計画した住宅の例

住商工 シンボルツリーを配置する



共同住宅のエントランスを印象づけるシンボルツリーの例



商業空間のシンボルツリーの例



シンボルツリーをアプローチ部に設け、効果的に配置している例



戸建住宅のシンボルツリーの例

住商工 高木・中木・低木の配置に配慮し、緑空間を立体的に表現するよう努める



低木から高木までを織り交ぜて配置し、緑視率を高めている例



敷際に高木・中木・低木をバランス良く配置し、緑に奥行きを持たせている例

住商工

様々な樹種を織り交ぜることで四季の移り変わりに応じた、彩りのある景観づくりに努める



四季の移り変わりに応じた彩りある植栽計画としている例



周辺に植生している樹種と同じ樹種を選定し、敷地の高低差を活かした植栽計画の例

住商工

緑の連続性に配慮する



敷際の植栽帯により緑が連続している例



敷際に植栽帯を設けている工場の例



公園の豊かな緑と連続した、敷際の緑の例



敷際に植栽帯を配置し、奥行きのある緑化で潤いをつくりだしている例

住商工 壁面緑化やプランターを置くなどし、敷地内の緑化に努める



プランターを置いて、敷地内の緑化に努めている例



塀にハンギングポットを設置し、敷地内の緑化に努めている例



四季の花を彩り、緑化に努めている例



外壁と一体となったフラワーポットを設置し植栽を工夫している例



壁面緑化の例



屋上緑化の例



植栽計画を考える際のポイント

■ 植栽の種類

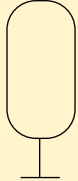




植栽の種類は主に高木・中木・低木・地被に分類されます。また一年中緑の葉を付ける常緑樹、秋から冬にかけて紅葉し、葉を落とす落葉樹に大きく分けられ、これらの特徴をうまく使うことでまちなみは変化し、魅力的なものになります。

種類	特徴
高木類	<p>目に留まりやすく、シンボルツリーやアイストップとして使用できます。枝が横に広がるものは大きな木陰ができ、人々の憩いの場をつくり出すのに役立ちます。</p>  <p>(例) クスノキ</p>
中木類	<p>身近な緑として、花や香りを提供してくれるだけでなく、敷地の境界部分に植えることで、人の視線を遮ることができます。比較的わずかなスペースでも植えることができます。</p>  <p>(例) ソヨゴ</p>
低木類	<p>面的な緑化手法として活用され、密植等により遮蔽効果や緩衝緑地としての役割を果たします。</p>  <p>(例) サツキ</p>
地被類 (ツル性類・ 草本類など)	<p>地面等を覆うことから人工的な路面の印象を和らげることができます。地被類(芝生など)・ツル性類は法面や傾斜地を緑化したり、草本類は彩りがあるものが多く、人々の目を楽しませてくれます。</p>  <p>(例) リュウノヒゲ</p>  <p>(例) オカメザサ</p>

植栽計画を考える際のポイント

■ 樹形の種類

ランドマークとして効果的な円錐形や逆三角形のもの、緑陰樹に適した円形や塊状形のもの、景観木らしい円柱形や特殊系のもの、それぞれの樹形の特性や生育後の大きさを考えて選びましょう。ここでは、代表的な樹形と、それぞれに分類される樹種を紹介します。

樹形	樹種	
	常緑樹	落葉樹
円錐形 	 ウラジロモミ	 メタセコイア  イチヨウ
円柱形 	 クロガネモチ  ヤマモモ	 ブナ  ポプラ
円・塊状形 	 クスノキ  ネズミモチ	 サクラ  トチノキ
逆三角形 	 タギョウソウ	 ハナミズキ  ケヤキ
特殊系 	 ソテツ  ヤシ類	 ヤナギ

植栽計画を考える際のポイント

■ 植栽の場所の選び方

樹木には樹形や植生にそれぞれ特徴があり、それらの特徴を理解した上で、うまく景観づくりに活かしましょう。樹木の特徴に応じて植栽の場所を選べば、より効果的に緑を見せることができます。

樹形や植生の特徴を考慮し、位置とバランスを考える

平面や立面で見たときに、植栽がバランスよく配置されているか、立体感のある配置となっているか確認しましょう。



建物との関係を考える

植栽の配置によって建物がどう見えるか、建物と合わせた時の見え方はいかが確認しましょう。



緑の演出を考える

人の視線を意識して効果的に配置できているか確認しましょう。植栽に興味を持たせる工夫も演出の一つです。



人の視線の高さにハンギングポットを設置している例



樹名板や説明文を植栽帯に設置し、興味を持たせている例

植栽計画を考える際のポイント

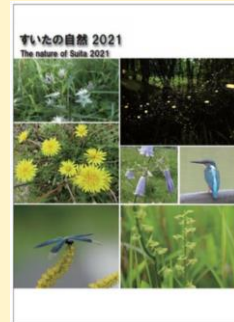
■ 地域の特徴となる樹種を選ぶ

樹種を選定するときは、周辺にある樹種を調べるのも一つの方法です。その地域の在来種を選び植えることで、エコロジカルなネットワークの形成に役立ちます。

土地の条件(土地の乾燥の度合い、風の度合い、日当たりなど)によって、適切な樹種を選びましょう。

▶▶▶ すいたの自然 2021

令和2年度から2年にかけて、自然環境の現況を調査し取りまとめています。吹田市に生育している植物や生物について参考になります。



吹田市ホームページからご覧いただけます。

■ 10年後、20年後の姿をイメージする

植栽は植えたら終わりではありません。木は育つもので、大きく成長する樹種は、生育のために広いスペースが必要です。植物が育つための基盤や土壌環境を整えましょう。また、10年後、20年後の成長した姿をしっかりとイメージして植栽を配置しましょう。

また、植栽をすることで緑が眺められ、そこに住まう人々や地域の方々にとって癒しの空間となります。近年では住民の手によって維持管理を楽しめるように、花壇などを配置する住宅開発の例もみられるようになりました。

身近に自然と触れ合える空間があり、それを維持管理することで、緑の成長を楽しみ、いきいきと暮らしている景観をはぐくむことができます。

▶▶▶ 生物多様性と「生きる景観」

みどりは、生き物の生息・生育の場となります。まとまった規模であれば、多くの生き物の生息・育成が可能となります。小さなみどりであっても、連続して生き物の移動が可能となれば、生息・生育に貢献します。

花が咲きチョウチョが飛んでくる、木々に鳥がとまり鳥のさえずりが聴こえてくる、、、景観は長い時間をかけて個々の取組の積み重ねで形成されるものであり、繋がったみどりにはいつしか、生き物が生まれ育ち、またその姿も景観の一つの要素となっていきます。

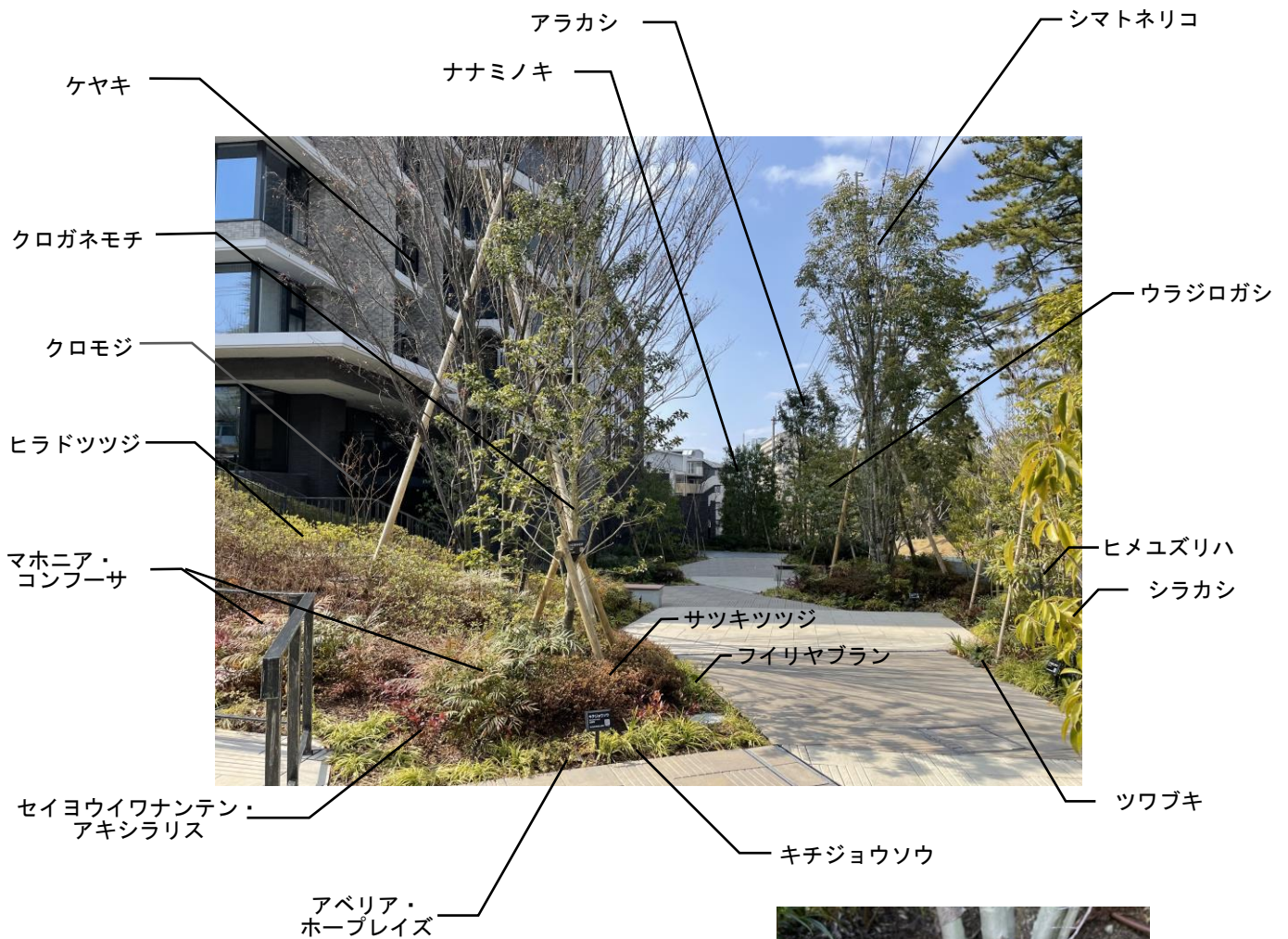
植栽をすることで、景観だけでなく、生き物たちがいきいきと暮らせる環境づくりにも貢献していることを意識しながら、取り組んでいきましょう。



吹田市指定天然記念物ヒメボタルの生息地(千里緑地(第4区))

■ 共同住宅(ジオ北千里藤白台)

エントランスから北東角地にかけては、居住者以外も利用できる「つどいの広場」が配置され、敷地周辺にある公園の恵まれた緑と調和する計画とするために、周辺と同じ樹種を多く選定し、敷地の高低差を活かした奥行き感のある植栽計画となっています。樹名板には QR コードが用いられ、緑への興味を持たせる工夫がなされています。



樹種リスト

【高木】



ケヤキ



シマトネリコ



クロガネモチ



※雌木のみ



ウラジロガシ



シラカシ



アラカシ



ナナミノキ



ヒメユズリハ



【中木】

クロモジ

【低木・地被類】



ヒラドツツジ



ファイリヤブラン



ツワブキ



セイヨクワナンテン・アキシリス



アヽリア・ホヽプレイズ



サツキツツジ



キチジョウソウ



マホニア・コンフォサ

植栽計画を考える際のポイント —事例—

■ 共同住宅(市営岸部中南住宅)

団地エントランスにシンボルツリーを配置し、サークルベンチを置くことで、人々の憩いの場となります。アプローチ通路には低木と中木を配置し、また駐車場には緑化ブロック、消防活動空地には耐圧芝を設え、景観だけでなく環境に配慮した植栽計画となっています。



樹種リスト

【高木】



ヤマモモ



※雌木のみ



ヤマボウシ



【中木】



ソヨゴ



※雌木のみ

【低木・地被類】



ユキヤナギ



ヒラドツツジ



コクチナシ



ノシラン



アベリアコンフェッティ



フィリヤブラン



マホニア・コンフォーサ

植栽計画を考える際のポイント —事例—

■ 戸建住宅(円山町)

緑豊かな環境と調和し、潤い豊かなまちなみを形成しています。シンボルツリーや生垣には四季折々に色づく樹木、花木を選定し、季節感の感じられる風景を創出しています。



樹種リスト

【高木】



トキワマンサク



コハウチワカエデ

【低木・地被類】



ヒラドツツジ



サツキツツジ



シルバープリペット



トベラ



ラベンダー



オタフクナンテン



マホニア・コンファーサ



ハツユキカツラ



フッキソウ

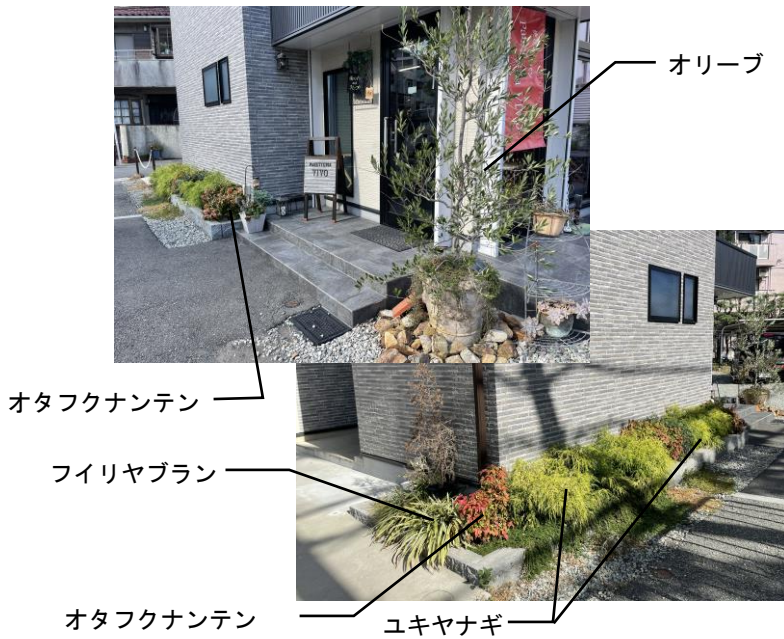


タマリユウ

植栽計画を考える際のポイント —事例—

■ 店舗(泉町)

敷際に低木・地被類を植えることで潤いを持たせ、高木のオリーブの鉢植えは、アイストップの役割を果たしています。



樹種リスト

【高木】



オリーブ

【低木・地被類】



ユキヤナギ

フィリヤブラン

オタフクナンテン

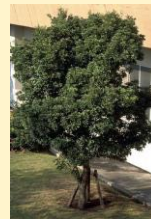
■ 事務所(岸部新町)

道路からセットバックさせた空間に高木を列植することで、防球ネットが通りから見えにくくなっています。



樹種リスト

【高木】



ヤマモモ



※雌木のみ

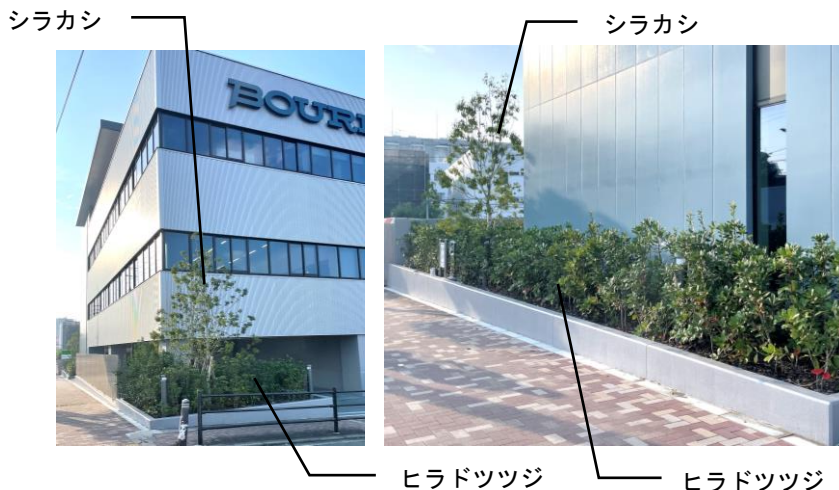
【低木】



アベリア

■ 事務所(西御旅町)

敷地角にアイストップとなる高木を配置し、また敷際に植栽帯を設けることで沿道の景観に潤いをもたらしています。



樹種リスト

【高木】



シラカシ

【低木】



ヒラドツツジ

植栽計画を考える際のポイント —事例—

敷地に余裕がない場合でも、わずかな隙間を活用した緑化も可能です。地被類で示した駐車場のライン、軽量土壌に地被類を使った屋上緑化、登はん性や下垂性の植物を使った壁面緑化などにより、視覚的効果に加えてヒートアイランド対策にも寄与します。



樹種リスト

【中木】



【低木】



樹種リスト

【地被類】



樹種リスト

【地被類】



※こちらで紹介した樹種については、数多くある樹種のごく一部になります。